

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 15 日現在

機関番号：33104

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20320113

研究課題名（和文）中国朝鮮族と回族の民族教育と民族アイデンティティ形成に関する総合的研究

研究課題名（英文） A Comparative Study on the Ethnic Education and the Formation of the Ethnic Identity of the Korean Nationality and the Hui Nationality in China

研究代表者

松本 ますみ（MATSUMOTO MASUMI）

敬和学園大学・人文学部・教授

研究者番号：30308564

研究成果の概要（和文）：

中国の朝鮮族と回族を抽出し、民族教育の経験と民族アイデンティティの相関性について歴史社会学的研究調査を行った。その結果、1）両民族とも民族教育経験者が民族の矜持が強いこと、2）同民族内のネットワークに依拠し、漢語と民族語を駆使し対外通商業務、出国、留学、出稼ぎを行うという共通点があることが分かった。両民族はグローバル化の波にのった「成功した」民族であり、その鍵は民族教育にあることが分かった。

研究成果の概要（英文）：

Focusing on the Korean and the Hui nationalities in China, we made a comparative study on the relationship between ethnic education and ethnic identity. We conducted a survey to investigate their ethnic socio-historical relations. We have found the following facts. First, those who experienced ethnic (formal or non-formal) education maintain strong ethnic identity and pride. Second, based on ethnic networks, they make full use of their bilingual skill when China has become a global economic power and needs translators and traders, while some immigrate abroad for study or odd-job to their “imaginary homelands”. These two nationalities are “exceptionally successful” in term of ethnic education and economic prosperity.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
2009 年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2010 年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2011 年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
総計	14,600,000	4,380,000	18,980,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：朝鮮族、回族、国民統合、民族教育、民族アイデンティティ、移住、グローバル化、ディアスポラ

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 朝鮮族と回族のディアスポラ性に着目し、近隣諸国にも同エスニシティや宗教信仰者が住んでいるなど、省境、国境を越えた交流、移動がさかんであるという共通点があること。

(2) 両民族の民族教育は近代において民間から始まり、教育運動・文化運動という自発的形態をとって発展したこと。

(3) 民族教育のカリキュラムは、1949年の「解放」以前は、海外勢力のカリキュラムにのっていたこと。

(4) 両民族は、民族問題が深刻といわれる中国の中で、分離主義やテロの心配のない「愛国的民族」で、教育程度も高いと漢族側から評価されてきたこと。

(5) 90年代以降、民族アイデンティティが強化されているという事象がみられる。ヒト・モノ、情報の移動量が急増しているということ、などがその背景にある。

## 2. 研究の目的

朝鮮族と回族の近代民族教育史とその教育を受けたものがいかなる民族アイデンティティを持っているのかを検討する。そして、グローバル化の時代に省境や国境を越えて移動するこれら二つの民族にどのような共通点があり、どのような相違点があるのかを考察し、今後の中国の周縁民族のありかたについての一つの観点を実証する。

## 3. 研究の方法

(1) 文献史学的方法：档案資料（台湾国史館、延辺の档案館）や民国時代の雑誌をつかって、「解放前」の朝鮮族、回族の民族教育の実施状況を検証した。また、日本敗戦後の関内の朝鮮人の帰還や残留について、実証的な研究を行った。さらには、回族の関連エスニシティであるウイグル族の「創成」についても、文献学的調査を行った。

(2) オーラルヒストリーの方法：「満洲国」期「解放戦争」期に民族教育を受け朝鮮族老人、回族老人に、面談調査し、当時のカリキュラムや学生の気質、教員の実情についての記憶をたどってもらった。また、国共内戦期、1949年以降の教育のありかた、反右派闘争・文革時代の「弾圧」の実態も面談調査し、その内実を分析した。また、戦前戦後、医療機関に留用された日本人にもインタビューした。

(3) アンケートをつかった社会学的方法：朝鮮族（在延辺・在ソウル）と回族（在山東、浙江、雲南）に対してそれぞれ（109人、127人）にアンケートを実施し、民族教育と民族アイデンティティの相関性について調べた。

## 4. 研究成果

(1) 松本ますみは、①文献学調査に基づき、中国回族女性独自のイスラーム宗教教育機関である女学の歴史を民間史料から浮彫にした。そして、世俗政権との軋轢や譲歩の歴史を描き出した。②イスラーム学校の学生や卒業生との面談調査、アンケート調査をし、「経済的豊かさへの追求」と「敬虔さ」が回族の中ではリンクしていることを証明した。民衆史、特にマイノリティ史、ジェンダー史と中国におけるイスラーム社会の変容という宗教社会学的研究に位置付けられる。このような研究は従来なく、非常にオリジナリティに富むものである。今後の課題は、世俗的

高等教育を受けた回族の若者の回族アイデンティティのありよう——漢化/世俗化するか、ムスリムであることで自尊を得るか——についての調査を遂行することである。さらには、中国のディアスポラ・マイノリティと他の国家・地域のディアスポラ・マイノリティの共通点と相違点を国家制度、社会的要素等から検証することである。

(2) 小林元裕は関内における朝鮮族の歴史的な動向を分析・検討した。日本敗戦に伴う朝鮮人の送還に関する先行研究は、華北からの送還の中心地、天津の状況を分析した論文が中国で発表されている。が、それはあくまで戦後送還事業を中心に分析しており、戦前と戦後を結ぶ視点は欠落している。小林の成果は戦前と戦後を結びつけ分析した点にある。今後の展望として、関内残留朝鮮人の現在までの軌跡を視野に入れ論文を作成する。

(3) 権寧俊の研究課題は、文献調査と現地調査、面談調査を通して、朝鮮族の国民意識と民族アイデンティティの形成に関する「民族教育」の役割を明らかにすることであった。従来の朝鮮族研究では、民族教育問題、人口移動問題、民族アイデンティティ問題に関する分析はされている。しかし、それらを結ぶ視点が欠けていた。権の成果はこれらを総合的に結びつけ分析した点にある。また、中国国内の朝鮮族だけでなく、韓国内の朝鮮族と比較分析することで、海外の朝鮮族の状況も明らかにした。さらに、統計資料、「アンケート調査」、面談調査に基づく研究成果は今後の朝鮮族及び中国少数民族の研究においても、非常に参考になると信じる。

本研究では、現代朝鮮族の人口流動は民族教育や民族アイデンティティの問題だけでなく、次世代の伝統文化意識、言語観、宗教観などにも大きな影響を与えていることが明らかになった。そこで、今後は第一に次世代の問題に注目して研究を進めていきたい。第二に、在日朝鮮人との比較研究も今後の課題である。「ディアスポラ性」という点で共通であるにも関わらず、中国朝鮮族は在日韓国・朝鮮人と相違点が多いからである。

(4) 小林（新保）敦子は、モンゴル族、チベット族、サラール族、彝族、回族、朝鮮族など少数民族地域の民族教育現場を実地に検証、教員にアンケート調査及び面談調査した。その結果、朝鮮族と回族が例外的に民族教育に対して熱心であり、それが省外/海外への移動、経済的豊かさへの希求と密接な関係があることを明らかにした。逆にいえば、両民族以外は、「漢化」の前に民族教育が危機に瀕しているという従来指摘されてきた事実を再確認した。このように多くの少数民族の

教育現場を実施検証しながら中国少数民族教育問題を比較した研究は従来なかった。今後の課題として、中等教育機関における進路指導が各少数民族間でどのように異なり、それが民族アイデンティティとどのように関連しているのかの追跡調査が必要であろう。

(5)花井は「満洲国」期教育を受けた朝鮮族の教育経験の聞き取り調査を行った。植民地教育である満洲国時代の教育を受けた民衆の記憶について現在の語りを分析し、満洲国の教育経験が1949年以降の社会上昇と関わりがあることを考察した。公定の歴史には掲載されない民衆史、社会史的視点からの研究として位置づけられる。また、現在の朝鮮族の社会調査、学校調査、聞き取りを通して、朝鮮族の省境/国境を越えた人口移動は民族教育と深い関係があることについて明らかにした。今後の課題は、さらなる聞き取りを重ね、この事実を実証していくことにある。

(6)清水はこれら二つの「模範的」少数民族と対極にあるウイグル族をとりあげ、彼らの近代における民族アイデンティティ形成のプロセスについて検討した。ウイグル族の民族アイデンティティについては、近年国内外で研究が進捗しつつあるものの、資料的制約もあり未だ研究上の空白が多い。清水の成果は、世界各地から収集したウイグル語史料にもとづいて、「ウイグル族」としての近代的な民族アイデンティティを形成していく過程を実証的に検討した点にある。検討をとおして、中華民国期にはウイグル・アイデンティティが必ずしも支配的ではなかったこと、その背後には新疆に対する先住性の主張が存在していたことを明らかにした。

今後はディアスポラである回族や朝鮮族とウイグル族を具体的に比較検討したい。そのような作業を通して現代中国の多民族国家としてのあり方について、より深く考察することが可能になると思われる。

(7)砂井は、回族の民族アイデンティティにおける民族教育の役割について福建省で調査研究を行った。砂井の調査地の回族は、祖先が過去ムスリムであったという民族的出自にその民族アイデンティティの重点を置く。民族識別工作以後に回族としての民族事業を「回復」し行うようになった。先行研究には、民族政策と民族アイデンティティの相互作用と伝統主義復興の分析がある。しかし、イスラーム教育やモスクを場として展開するネットワークについてはほとんど触れられていない。砂井の成果は、20世紀初頭および1990年代半ばから現在、イスラーム教育を受けた調査地の新旧の回族の民族アイデンティティ形成の変容を検証し、回族アイデ

ンティティの多元性・多様性を提示する点にあった。今後、4年間で得た事例をとりまとめて福建のムスリム教育についての論文を作成する。さらに、民族と国籍をこえたムスリムの協働と地域との関係に着目して調査研究を実施したい。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計31件)

- (1) 松本ますみ 「回族の民族教育と生活実態に関する一考察」『中国朝鮮族と回族の民族教育と民族アイデンティティ形成に関する総合的研究』平成20～23年度日本学術研究界科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書(研究代表 松本ますみ)、査読無、2012年3月、250-277頁。
- (2) 小林元裕 「通州事件の語られ方」、『環日本海研究年報』査読無、第19号、2012年、57-68頁。
- (3) 新保敦子 「改革開放政策下での少数民族と中等教育—モンゴル族に焦点を当てて」『学術研究』査読無、第60号、2012年2月、49-60頁。
- (4) 新保敦子 「中国少数民族地域における民族文化継承と学校教育—回族及び朝鮮族に焦点を当てて—」『中国朝鮮族と回族の民族教育と民族アイデンティティ形成に関する総合的研究』平成20年度～23年度 科研基盤研究(B)研究成果報告書、査読無、2012年3月、44-55頁。
- (5) 花井みわ 「ある中国朝鮮族女性が語る満洲国教育体験と戦後社会上昇」『中国朝鮮族と回族の民族教育と民族アイデンティティ形成に関する総合的研究』平成20年度～23年度 科研基盤研究(B)研究成果報告書、査読無、2012年3月、119-127頁。
- (6) 松本ますみ 「もう一つの女性解放と開発に向けての選択?」『女性・戦争・人権』No. 11、査読有、2011年11月、89-116頁。
- (7) 新保敦子 「現代中国における英語教育と教育格差—少数民族地域における小学校英語の必修化をめぐる—」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』査読有、第21巻、2011年、39-53頁、  
<http://hdl.handle.net/2065/32667>
- (8) 新保敦子 「少数民族地域における多文化教育の実践—中国青海省に焦点を当てて—」『学術研究』査読無、第59号、2011年、1-14頁、  
<http://hdl.handle.net/2065/33510>
- (9) 小林元裕 「華北分離工作期北京の日本居留民」『環日本海研究年報』査読無、第18号、2011年、44～50頁。
- (10) 小林元裕 「中国の経済発展と歴史認識」

『史苑』査読無、第71巻第1号、2011年、51-54頁。

(11) 権寧俊「中国朝鮮族における民族教育の現状と課題」『国際地域研究論集 (JISRD)』第2号、2011年、67-92頁。

(12) 花井みわ「中国朝鮮族の人口移動と教育」『早稲田社会科学総合研究』、第11巻、第3号、査読無、2011年3月15日、61-82頁。

(13) 花井みわ「韓国と中国延辺に分かれて一龍井恩真中学校同窓生の戦後」蘭信三編『帝国崩壊とひとの再移動』査読無、勉誠出版、2011年9月10日、95-103頁。

(14) 清水由里子「『新生活』紙にみる「ウイグル民族意識再考」『中央大学アジア史研究』査読無、35号、2011年、45-69頁。

(15) 砂井紫里、「都市の食と中国ムスリム—回族の「清真」その民族・宗教・地域の交渉から」『全球都市全史研究会報告書第4回食から見た都市—地域と歴史を縦断して—第5回南アジアのメガ・シティ研究 (1) ムンバイの歴史的形成と現在』、査読無、2011年、32-47頁。

(16) 花井みわ「解放直後中国朝鮮族の社会統合と適応—幹部・土地改革・教育における排除と包摂を通して—」『日本帝国崩壊後の人口移動と社会統合に関する国際社会学的研究 研究成果中間報告書』2008年度～2011年度科研基盤研究 (B) (研究代表者蘭信三)、査読無、2010年9月1日、52-68頁。

(17) 権寧俊「朝鮮人共産主義運動と中国共産党の対朝鮮人政策」『国際地域研究論集』創刊号、国際地域研究学会、査読有、2010年、1-21頁。

(18) 松本ますみ「グローバル化と新しいムスリム・ネットワークの形成：浙江省義烏市における移民を中心に」『中国南北の国境地域における多民族のネットワーク構築と文化の動態』平成19年度—21年度科研報告書 (研究代表者：塚田誠之)、査読無、2010年3月、9-30頁、  
<http://hdl.handle.net/10502/4505>

(19) 松本ますみ「見知らぬ民を「知る」と「仲間」と考えること」『近きに在りて』査読有、No. 58、2010年11月、2-18頁。

(20) 新保敦子「改革開放政策下で中国ムスリム女性教師—進路選択・生活実態・アイデンティティに焦点を当てて—」『日本社会教育学会紀要』査読有、第46巻、2010年、41-50頁。

(21) 新保敦子「教育による不平等の形成—改革開放期の中国西北部農村をめぐって—」『中国—社会と文化』査読無、第25号、2010年、18-36頁。

(22) 新保敦子「中国貧困地区影響学生上学不利因素及対策研究」『学術研究』査読無、第

58号、2010年、1-7頁。

<http://hdl.handle.net/2065/31522>

(23) 清水由里子「国民党系ウイグル人の文化・言論活動 (1946-1949年) について—『自由』紙にみる「テュルク」民族意識の検討を中心に—」『日本中央アジア学会報』査読有、6号、2010年、23-45頁。

(24) 松本ますみ「佐久間貞次郎の対イスラム工作と上海ムスリム：あるアジア主義者をめぐる考察」『上智アジア学』査読有、第27号、2010年3月、115-133頁。

<http://repository.cc.sophia.ac.jp/dspace/handle/123456789/15794>

(25) 新保敦子「回族女子青年のエンパワメントに関する一考察」『教育研究における東アジアの歴史認識 (日本教育学会特別課題研究委員会報告書)』査読無、2009年、114-123頁。

(26) Shimbo Atsuko, "The Progress of Globalization and Educational Reforms in East Asia", *Educational Studies in Japan International Yearbook*, No. 4, 2009年、pp.117-122.

(27) 松本ますみ (真澄)「公弁教育と非公弁教育中的性別と女性的発展：項關於伊斯蘭教育的問卷調查分析」『第二届回族学国際学術討論会論文集』査読無、寧夏人民出版社、2009年12月、392-400頁。

(28) 松本ますみ「中国イスラム復興の〈形〉」南山大学地域研究センター共同研究『宗教と政治のインターフェイス 成果報告書』2006-2008、査読無、2009年3月、65-83頁。

(29) 権寧俊「韓国光復軍的建軍と重慶国民政府」、靳明全・内田知行編『中日学者抗戦文史研究論文集』重慶出版社、査読有、2009年) 229-247頁。

(30) 権寧俊「中華民国期前半の間島における対朝鮮人教育政策と民族教育運動」『北東アジア地域研究』第14号、査読有、2008年、99-113頁。

(31) 砂井紫里、「回族の食実践とイスラムの記憶—中国・福建省の事例から—」『歴史と地理 世界史の研究』、査読無、619(217)、2008年、53-57頁。

[学会発表] (計32件)

(1) 松本ますみ「回族の省境・国境を越えた移動とアイデンティティ」、国際シンポジウム 越境する中国のエスニック・マイノリティ：朝鮮族の場合」2012年3月24日於：早稲田大学。

(2) 新保敦子「中国少数民族地域における民族文化継承と学校教育—回族及び朝鮮族に焦点を当てて—」、「国際シンポジウム 越境する中国のエスニック・マイノリティ：朝鮮族の場合」、2012年3月24日、於：

- 早稲田大学。
- (3) 小林元裕「1945年、日本の敗戦と中国在留朝鮮人」、国際シンポジウム「越境する中国のエスニック・マイノリティ：朝鮮族の場合」、2012年3月24日、於：早稲田大学。
  - (4) 小林元裕「通州事件の語られ方—華北における日本居留民」、中央大学政策文化総合研究所分科会「日本外交と条約締結のアーカイブズ学的研究」、2012年3月13日、中央大学多摩キャンパス。
  - (5) 松本ますみ「1930年代中国ムスリムの国際関係認識と衛教：イスラーム雑誌にみる世界情勢」イスラーム地域研究上智大学拠点公開研究会「アジアのムスリムと近代：1920～1930年代の出版物を資料として」、2012年1月29日、於：上智大学。
  - (6) 松本ますみ「信仰深さによる抵抗：イスラーム教育を受けた回族女性」、「中国ムスリム研究会10周年記念大会シンポジウム」、2011年12月18日、於：早稲田大学。
  - (7) 松本ますみ「見えない人種と中国国民統合のポリティクス：『中華大家庭』表象のエスニシティとジェンダー」、「京都大学人文科学研究所人種研究会」、2011年12月3日 於：京都大学人文科学研究所。
  - (8) 権寧俊「中国朝鮮族の民族教育とアイデンティティ」、「国際地域研究学会 第2回研究大会」2011年12月3日、於：新潟県立大学。
  - (9) 清水由里子「『東トルキスタン史』の叙述傾向と史料的价值について」、「内陸アジア史学会2011年度大会」、2011年11月12日、於：富山大学人文学部。
  - (10) 小林元裕「華北社会の変容と通州事件」、国際ワークショップ「日中全面戦争と地域社会変容」、2011年11月12日、新潟大学。
  - (11) 権寧俊（招待講演）「抗日戦争時代の韓中間人的交流」、仁荷大学校BK21 東アジア韓国学事業団『2010 東アジア韓国学国際学術会議』、2010年11月25日、於：仁荷大学校韓国研究所。
  - (12) 小林元裕、「華北分離工作期北京の日本居留民」、国際ワークショップ『日中戦争の深層』、2010年11月13日、新潟大学。
  - (13) 新保敦子「グローバリゼーションの進行と東アジア地域の教育改革」、「日本教育学会」、2009年8月29日、於：東京大学。
  - (14) 権寧俊「中国朝鮮族における民族教育の現状と課題」、「2010 東アジア韓国学国際学術大会」、2010年8月27日、於：東海グランドホテル、韓国東海市。
  - (15) 権寧俊（招待講演）「韓中日協力時代の朝鮮族の役割」、「第1回韓日共同学術大会」、於：高麗大学亜細亜問題研究所、2010年8月23日、韓国ソウル市。
  - (16) 砂井紫里「都市の食と中国ムスリム—回族の「清真」その民族・宗教・地域の交渉から」、第4回全球都市全史研究講演会「食から見た都市—地域と歴史を縦断して」地球研「メガシティが地球環境に及ぼすインパクト」プロジェクト代表：村松伸、2010年7月29日、於：東京大学生産技術研究所。
  - (17) 松本ますみ（真澄）（招待講演）「佐久間貞次郎对中国伊斯蘭的活動和上海穆斯林：圍繞着一個亞州主義者的考察」、*Nanjing University--Harvard-Yenching, Fourth Dialogue between Chinese and Islamic Civilizations*, June 11-12, 2010, Nanjing University and Nanjing Grand Hotel, Nanjing, China.
  - (18) 新保敦子「グローバリゼーションの下での中国の少数民族教育—外国語教育をめぐる—」、「アジア教育史学会」、2010年3月29日、於：国士舘大学。
  - (19) Matsumoto, Masumi.（招待講演）“Islamic Awakening in Modern China: Nationalism, Education and Reforms”. *International Workshop of Comparative Research on Major Regional Powers in Eurasia : Islamic Institutions and Imperial Reach: The Complex Articulation of Ideas, Education and Mobility*, Jan. 23, 2010, at Life Science Center, Room 701 (Toyonaka, Osaka).
  - (20) 松本ますみ「中国のムスリム女性：女性マドラサのジェンダーポリティクス」、「日本国際政治学会 2009年度全国大会」ジェンダー分科会、2009年11月8日、於：神戸国際会議場。
  - (21) 松本ますみ「見知らぬ民を「知る」と「仲間」と考えること」、「日本現代中国学会 第59回全国学術大会」2009年10月18日、於：神戸大学。
  - (22) 新保敦子「グローバリゼーションの進行と東アジア地域の教育改革」、「日本教育学会」、2009年8月29日、於：東京大学。
  - (23) 新保敦子「教育による不平等の形成」、「中国社会文化学会」、2009年7月12日、於：東京大学。
  - (24) 松本ますみ「佐久間貞次郎の『回光』と1920年代上海ムスリム」、「上智大学イスラーム地域研究合同研究会」2009年7月3日、於：上智大学。
  - (25) 砂井紫里「中国のイスラーム：食文化、フィールドからのアプローチ」、早稲田アジア学：確立への挑戦「早稲田大学アジア研究機構第5回シンポジウム」、2009年5月23日、於：早稲田大学国際会議場。
  - (26) 清水由里子「テュルクからウイグルへ：近代ウイグル人のナショナルリズムと中国の国家統合をめぐる」、「ワークショップ「地域秩序の形成と流動化—中央アジア

の“いま”を探る」、2009年1月31日、於：学習院大学創立百周年記念会館小講堂。

- (27) Matsumoto, Masumi, “Some Aspects of the Development of China’s Female Madrasa”, Plenary Session A2, ISA-AEI Int’l Conference, *New Horizons in Islamic Area Studies*, Nov. 24, 2008, at Hotel Nikko Kuala Lumpur, Malaysia.
- (28) 砂井紫里, “Communication and through Shared Meals: Commensality at a Mosque in a Non-Muslim Region of Southern China” Poster Session, *IAS-AEI International Conference, New Horizons in Islamic Area Studies*, Nov. 22-24, 2008, at Hotel Nikko Kuala Lumpur, Malaysia.
- (29) 松本ますみ (真澄) 「雲南女子学校的宗教教育と有関女性的‘発展’的討論」 「中国辺境民族的遷徙、交流和文化動態 中日国際学術研討会」、2008年9月2日、於：雲南大学伍瑤人類学博物館。
- (30) 松本ますみ 「中国イスラーム復興の〈形〉 - 政治・教育・ジェンダー - 南山大学地域研究センター共同研究『宗教と政治のインターフェイス』2008年7月25日、於：南山大学。
- (31) 清水由里子 「近代ウイグル知識人の著作に見る「祖国」意識—東トルキスタンと新疆—」、中央大学政策文化総合研究所公開講演会「中央ユーラシア研究の展望：自然科学と人文・社会科学の融合をめざして」（共催：「中央ユーラシア総合研究」プロジェクト、日本沙漠学会夏季シンポジウム）、2008年7月24日、於：中央大学駿河台記念館310号室。
- (32) Matsumoto, Masumi, “The Debates on Islamic Feminism and Empowerment: Gender in Contemporary Islam in China” Session 160, *Annual Meeting of Association for Asian Studies*, April 5, 2008, at Hyatt Regency Atlanta, U.S.

〔図書〕(計8件)

- ① 新保敦子, 福村出版、「東アジアにおける傾向と課題—グローバル化と少数民族女子青年をめぐる—」『ジェンダーと国際教育開発—課題と挑戦—』2012年4月、80-94頁。
- ② 小林元裕、吉川弘文館、『近代中国の日本居留民と阿片』2012年、全311頁。
- ③ 松本ますみ 「孫中山と「徹底した民族主義」：近代的統一という幻想」、王柯編、藤原書店、『辛亥革命と日本』2011年11月、212-236頁。
- ④ 小林元裕 粟屋憲太郎編、現代史料出版、『近現代日本の戦争と平和』2011年、71~118頁

- ⑤ Matsumoto Masumi and Shimbo Atsuko, “Islamic education in China: Triple discrimination and the challenge of Hui women’s madrasas” (In Sakurai Keiko, Fariba Adelkhah eds. Routledge, *The Moral Economy of Madrasa*, 2011, pp. 85-102).
- ⑥ 新保敦子(園田茂人と共著)、岩波書店、『叢書・中国的問題群 教育は不平等を克服できるか』、2010年、全176頁。
- ⑦ 松本ますみ、山川出版社、『イスラームへの回帰』、2010年6月 全113頁。
- ⑧ 松本ますみ 「近代雲南ムスリムのイスラーム改革と変容するアイデンティティ」塚田誠之編、有志舎、『中国国境地域の移動と交流』2010年3月、206-236頁。

〔その他〕

一般市民向けのアウトリーチ講演として、敬和学園大学オープンカレッジ(権寧俊「中国朝鮮族社会の形成と変容」2011年9月29日、松本ますみ「グローバル化の中の中国イスラーム」2011年10月6日、於：新発田市生涯教育センター、共催：新発田市生涯学習センター、(財)新潟県国際交流協会)を行った。研究成果報告書(新潟印刷、2012年3月28日)(全288頁)を発行した。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

松本 ますみ (MATSUMOTO MASUMI)  
敬和学園大学・人文学部・教授  
研究者番号：30308564

### (2) 研究分担者

小林(新保) 敦子 (KOBAYASHI ATSUKO)  
早稲田大学・教育総合科学学術院・教授  
研究者番号：90195769  
小林 元裕 (KOBAYASHI MOTOHIRO)  
新潟国際情報大学・情報文化学部・教授  
研究者番号：80339936  
権 寧俊 (KWEON YONGJUN)  
新潟県立大学・国際地域学部・准教授  
研究者番号：2041317

### (3) 研究協力者

花井みわ (HANAI MIWA)  
早稲田大学・社会科学総合学術院・准教授  
研究者番号：70578476  
砂井 紫里 (SAI YUKARI)  
早稲田大学・イスラーム地域研究機構・研究助手  
研究者番号：90367152  
清水 由里子 (SHIMIZU YURIKO)  
中央大学・文学部・兼任講師